

# 支部だより

2015.5.29 No 2 東京支部事務局

2015年3月14日(土) 今年度第一回目の例会が実施されました。今年度、例会の目標を ①ぐっと辛口の講評 ②知りたいこと疑問は講師に率直に! を目指していききたい。それには講師とのコミュニケーションを図る。そして親しく会話する。この二つを大切にしていきたい。(例会担当役員) と強調しています。

今回から講評を受ける方が講師の近くの椅子に座り、「対話型」で講評を受けることにしました。

今回の様子を A さんの場合を例にしてご紹介致します。

作品 5 点について講評がありました。その内 2 点 A さん・・・「夕日が真っ赤だったのが、作品に出なかった」

講師・・・「WB は？」

A さん・・・「オートでした」

また、A さんの別の作品では

講師・・・「軽く逆光が入っていいね。手前の処理がとてもいい。出来ればもう少しアップにしたらいいかなあ」

A さん・・・「どうしたらいいでしょう」

講師・・・「木道では無理だったのかなあ」

全体としては A さんの作品について①光を感じる作品、逆光を上手く活かしている ②広角レンズの特徴を生かした作品 ③構図に気配りが感じられる。との講評がありました。

.....

例会が終わった時、「二人で話しているみたいな感じ」とのある女性の感想が印象に残りました。もちろん参加者どなたも聞いておりますし、質問も OK です。

第一回 定例会の参加者	16 名
プリント	9 名      42 作品
ポジ	1 名      5 作品

## ／／ 第一回例会の感想と注文 ／／

(B さん)

前回の例会では講評会(例会)のやり方が対話型に変わり、良かったと思います。「結構、長くはなしていたよ」と言われましたが、本人はそんなに長く対話したかなと思っていますが・・・前の席に座ったことも影響ある?と思いますが、一方的に聞くだけでなく勇気を出して、先生と積極的に会話しようと思いました。

今後の対話型の講評会への希望も書いてみました

最初は講師に客観的に作品を観て頂き、良い点、問題点をお聞きして、タイトルも大切かと思しますのでその点も含めて講評を頂きたいと思います。

その後、撮影者の意図を説明し、疑問や質問を伝えます。そのうえで解答とアドバイスを頂ければと思います。

また、全員の講評終了後に講師から、その日の作品全般に通じるポイントやアドバイスを頂きたいです。

(この文章は B さんをお願いして書いて頂きました)

## ◇◇◇ 会則改定委員会発足 ◇◇◇

委員長	長谷川義政
委員	紀田 幸男
同	戸張 真
同	山口 恭永

東京支部の会則は創立当初、会員の皆様にお配りし、2005 年に一部分改正されて以来、変わることなく

利用してまいりました。しかしこの間に会員の皆様に「会則は有るのか無いのか」と問われるほど見えない存在になっておりました。

このような状況になっておりましたので、改定後、10 年を過ぎ、一部分再改定の必要が生じていることと、また、支部会員の皆様にお示し出来るように会則の改定を進めることになりました。(3 月 14 日役員会)

次年度の総会のおりには皆様にお諮りして、改定会則がお手元に届くよう予定をしております。

〈お礼〉 5 月 1 日現在で支部会費の納入が終了致しました。ご協力有難うございました。会員数は 25 名です。(休会 1 名を含む)